

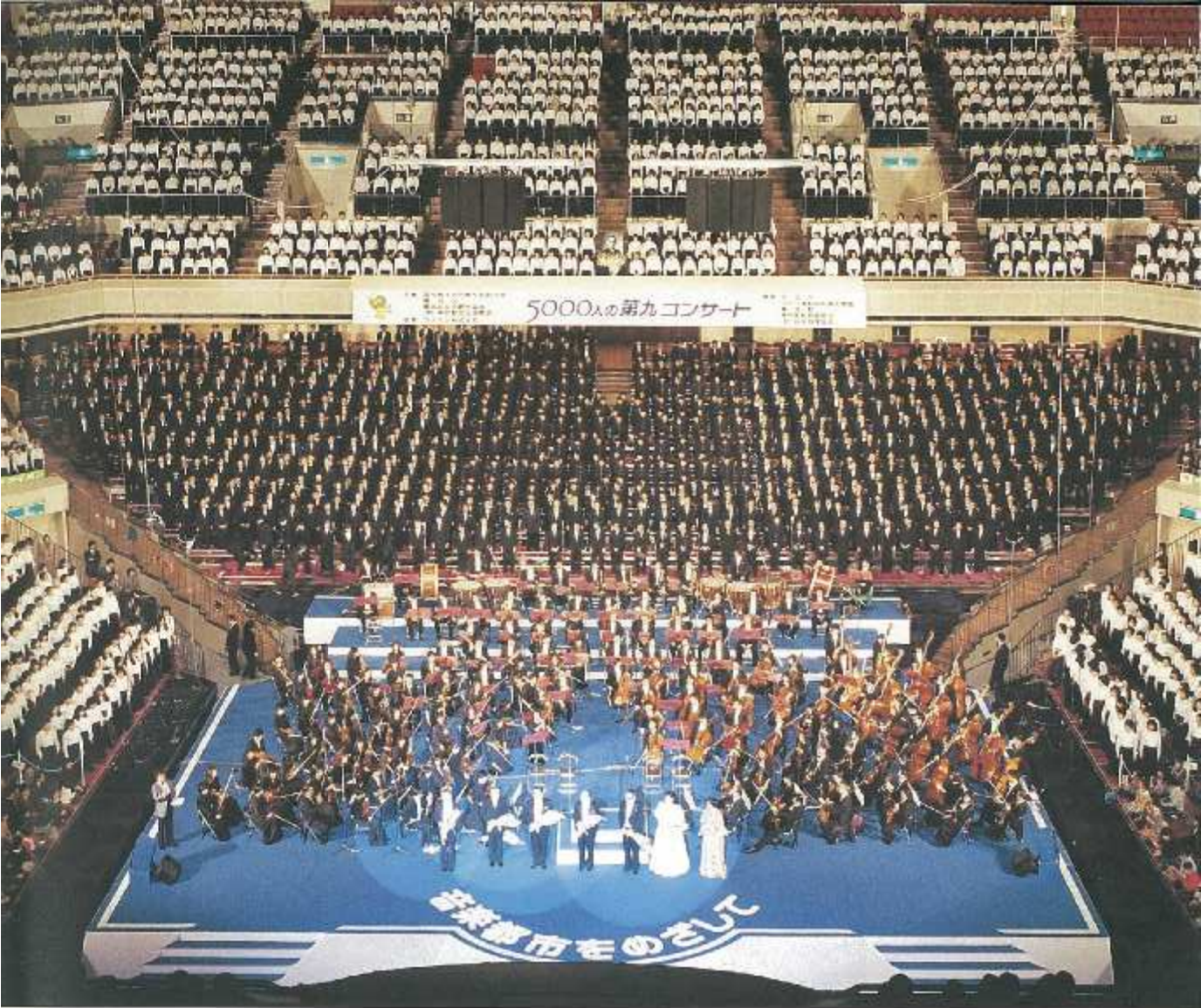
# BEEETHHOVEN 9th. SYMPHONY

ベートーヴェン作曲 交響曲第9番 二重調作品125 合唱付

第4回 国技館

5000人の  
**第九** コンサート





## 音楽都市づくり元年

音楽は世界共通の言語といわれます。一般の言語はそれを享有する人々の間でしか意を通することは叶いませんが、音楽の美しき調べは、ありとあらゆる障りを乗り越えて万人の心に語りかけ、幸せや喜び、熱いや安らぎ、そのほかあらゆる情感を一人ひとりの胸のうちに宿らせます。ある調べは打ちひしがれた人々を救い、また人々の心の中に宿られた痛を取り外しました。物より心の時代に移りつつある今、音楽のこの普遍な力に期待が寄せられるのも当然といえます。

前回、5000人の第九コンサートのテーマを「音楽都市をめざして」に置いたのも、音楽の持つこの偉大な力によって、心のまちづくりを願ったことにはがなりません。コンサートの創始者であり初代会長であった致山朝華次郎前墨田区長はそのテーマを設定されるにあたり、「音楽を通して真に響かなる喜びのちたらされんことを、このコンサートを通じてその志を地域、さらに延びくは広く世界にまで発信させよう」と望んでおられました。

そのご遺志、そして私たちの願いは、墨田区内にもさまざまな形で芽生えつつあります。若原早々の曳舟文化センターで展開されましたコンサートシリーズ、活発化した音楽サークル活動、推進が図られた音楽教育。この一年間、私もはさながら千天の土に恵みの雨が降り、やがてその潤いが深く広く拡がるように、音楽の喜びがこの地に定着しつつあるのを感じたのでございます。

このさまざまな成果の上に、私もは音楽都市の具現化に向けて、今、新たな第一歩を踏み出そうとしております。墨田区におきましても、音楽文化普及のための新たな核作りとともに、音楽の喜びをさらに幅広く味わい得るような施設など、物心両面にわたる推進策の検討が図られております。ここに山崎前会長の志を継ぐ奥山新会長により第四回のコンサートが開催されるにあたり、湧き上ります私たちの歌声が、音楽都市づくり元年、とも申すべき新たな門出にふさわしい大成功を収め、さらに明日の大きな成果をもたらすきっかけとなることを心から願うものです。

国技館すみだ第九を歌つ会

国技館5000人の

# 第九 コンサート

○と き

1988年2月21日(日)

○ところ

両国国技館

○開 場

午後1時

○第1部 午後2時

児童合唱 原観剣舞速

作詞 宮澤賢治 作曲 清瀬保二

1986構成 渡邊照彦

指揮 渡邊照彦

合唱 東京荒川少年少女合唱隊

釜石ノイホフ少年少女合唱隊

關田川合唱団ジュニア

○第2部 午後2時50分

ベートーヴェン

交響曲第9番ニ短調作品125「合唱付」

音楽監督・指揮 石丸 寛

管弦楽 国技館第九コンサート祝祭管弦楽団

●東京交響楽団

●新日本フィルハーモニー交響楽団

●その他 有名オーケストラの首席奏者

独唱 ソプラノ 中沢 桂

アルト 伊原 直子

テノール 市原 多朗

バリトン 栗林 義信

合唱指揮 辻 正行・渡邊 照彦

合唱 国技館すみだ第九を歌う会合唱団5000人





